

# 福島県 令和2年度当初予算

令和2年2月5日

1

モニター画像 1

令和2年度当初予算につきまして、発表いたします。

# 令和2年度当初予算

予算規模



1兆4,418億円

うち 復興・創生分  
5,043億円

2

モニター画像 2

一般会計当初予算の総額は、1兆4,418億円であります。  
これは前年度比で185億円の減となります。  
このうち、復興・創生分として5,043億円を計上いたしました。

# 令和2年度当初予算

【歳入】 1兆4,418億円

【歳出】 1兆4,418億円

I 県 税	2,325億円
II 地方交付税等	3,181億円
(うち地方交付税(通常分)	1,880億円
臨時財政対策債	355億円
震災復興特別交付税	946億円)
III 国庫支出金	3,001億円
IV 繰入金	2,139億円
V 県 債	1,307億円
(臨財債除く)	
VI その他	2,465億円

I 義務的経費	3,934億円
II 投資的経費	3,650億円
III 一般行政経費	6,834億円

(注) 金額について、表示単位未満の端数は、記載区分毎に四捨五入している。

3

モニター画像 3

歳入については、県税や地方交付税の確保を始め、「原子力災害等復興基金」などの各種基金を有効に活用し、必要な財源の確保に努めました。

歳出については、事業効果をしっかりと検証しながら、内部管理経費の節減や事務事業の見直しに努め、予算編成を行いました。

# 令和2年度当初予算

◆ 台風第19号等による災害からの復旧と生活再建

◆ 復興と地方創生を両輪で前進



4

## モニター画像 4

復興・創生期間の最終年度となる令和2年度は、本県の復興と地方創生を着実に前進させていく重要な一年であります。

このため、当初予算につきましては、台風第19号等による災害からの復旧と一日も早い生活・生業の再建に向けた取組を切れ目なく講じるとともに、これまでの挑戦を進化させ、未曾有の複合災害からの復興と福島ならではの地方創生を両輪で進めるための予算として編成いたしました。

それでは、新年度予算の主な事業について御説明いたします。

# 台風第19号等による災害への対応



道路の復旧



河川の復旧



被災住宅の応急修理



被災した事業者や農業者への  
きめ細かな支援

## 取組内容

- 道路、河川、農地など被災箇所の早期復旧
- 住宅の応急修理や借上げ住宅の提供等による生活再建支援
- 被災した商工業者や農業者へのきめ細かな支援
- 災害対応等についての検証 など

## モニター画像 5

はじめに、台風第19号等による災害への対応につきましては、被災箇所の迅速な復旧はもとより、被災された方々の生活再建や、事業再開、営農再開に向けきめ細かな支援を行ってまいります。

また、県の災害対応等についての検証を進め、ハード・ソフト両面での対応改善に向けて取り組んでまいります。

# 避難地域の復興 〔生活再建支援等〕



復興拠点づくりの支援



薬局再開に向けた協議会



営農再開の支援



被災した市町村への支援

## 取組内容

- 避難地域の復興拠点づくりの支援
- 医療提供体制の確保に向けた医療機関等の再開支援
- 事業再開・営農再開支援
- 被災市町村に対する人的支援 など

## モニター画像 6

次に、避難地域の復興についてであります。

避難指示の解除が進む中、復興の拠点づくりを支援する取組などを進めるとともに、引き続き、医療提供体制の確保に向けた医療機関等の再開支援を始め、事業再開や営農再開への支援、被災市町村に対する人的支援の拡充などに努め、避難地域の復興を一層加速させてまいります。



# 避難地域の復興 〔浜通りの再生〕



福島ロボットテストフィールド  
の全面開所



東日本大震災・原子力災害  
伝承館のオープン



浜通りにおける医療・福祉機器  
の改良や導入を支援



Jヴィレッジの魅力を発信

## 取組内容

- 福島イノベーション・コースト構想の更なる推進
- 福島ロボットテストフィールドの全面開所
- 東日本大震災・原子力災害伝承館のオープン
- 浜通りにおける医療・福祉機器の改良・導入支援
- Jヴィレッジの利活用促進 など

## モニター画像 7

次に、浜通りの再生についてであります。

福島イノベーション・コースト構想につきましては、本年春に全面開所となる福島ロボットテストフィールドを活用した革新的な取組や、夏頃にオープンする東日本大震災・原子力災害伝承館での情報発信、浜通りにおける医療・福祉機器の改良や導入に対する支援などにしっかりと取り組んでまいります。

加えて、本構想の具体化に向けて、「福島イノベーション・コースト構想推進課」を新設いたします。

また、復興のシンボルであるJヴィレッジの魅力を引き続き、広く発信してまいります。

# 安心して住み、暮らすための 環境づくり



除去土壌を着実に搬出



捕獲や侵入防止柵の設置など  
効果的なイノシシ被害対策の実施



VRを活用した防災意識  
の定着に向けた取組



エコ推進活動の取組

## 取組内容

- 市町村との連携による除去土壌の着実な搬出
- 捕獲や侵入防止柵の設置など、総合的かつ効果的なイノシシ被害対策の実施
- 住民の防災意識や地域防災力の向上に向けた取組
- ふくしまSociety5.0の実現に向けたICT活用促進やエコ推進活動の取組等による暮らしやすい環境づくり など

## モニター画像 8

次に、安心して住み、暮らすための環境づくりについてであります。

除染による除去土壌につきましては、引き続き、市町村と一体となり着実に搬出を進めてまいります。

イノシシ被害対策については、関係機関との連携を図りながら、捕獲や侵入防止柵の設置など、総合的かつ効果的な対策を講じてまいります。

また、台風第19号等の災害を受け、住民の防災意識や地域防災力の向上に取り組むほか、ふくしまSociety5.0の実現に向けたICTの活用や携帯端末のアプリを活用したエコ推進活動の取組など、暮らしやすい環境づくりを進めてまいります。



# 産業振興



再生可能エネルギーの  
更なる普及拡大



航空宇宙産業集積に向け  
県内企業の連携体制を構築



野菜栽培の施設化促進による  
一層の産地強化



林業の人材育成のための研修

## 取組内容

- 再生可能エネルギーの更なる推進
- 航空宇宙産業集積に向けた県内企業による連携体制構築の支援
- 県独自の企業立地補助金制度の創設
- きゅうりなど主要野菜の施設化促進による産地強化
- 女性等が農業で働きやすい環境づくりや林業の人材育成拠点の整備 など

9

## モニター画像 9

次に、産業振興につきましては、再生可能エネルギーの普及拡大に引き続き取り組むとともに、航空宇宙産業の集積に向けた県内企業による連携体制の構築を支援するほか、県内への企業立地を切れ目なく支援するため、県独自の補助金制度を創設いたします。

また、きゅうりなど主要な野菜栽培の施設化促進により、産地の生産力を一層強化するほか、農業の労働力確保に向け、女性や高齢者等が働きやすい環境づくりや、林業人材を育成するための研修拠点の整備を進めてまいります。

これらの取組により、本県産業の更なる振興を図ってまいります。

# 風評・風化対策



米の全量全袋検査体制の見直し



「福島40号」のブランド化



オリンピック等の機会を捉え  
県産品の魅力を発信



加工食品の安全・安心を確保

## 取組内容

- 震災から10年目となる「ふくしまの今」を広く発信する取組
- 米の全量全袋検査体制の見直し
- 県オリジナル米新品種「福島40号」のブランド化に向けた取組
- 県内オリンピック会場や県内外の関連イベントにおける県産品の魅力発信
- ふくしまHACCPによる県産加工食品の安全・安心の確保 など

10

## モニター画像 10

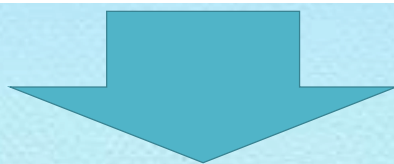
次に、風評・風化対策についてであります。

これまでの国内外への正確な情報発信に加え、震災から10年目を迎える新年度は、これまでの復興の歩みと「ふくしまの今」をより広く発信してまいります。

また、米の全量全袋検査体制を見直すとともに、県オリジナル米の新品種「福島40号」のブランド化やオリンピックを契機とした県産品の魅力発信に加え、加工食品の安全性をしっかりと伝えるなど、風評払拭・風化防止に取り組んでまいります。

## 次期「ふくしま創生総合戦略」策定の視点

- 一人ひとりが輝く社会をつくる（ひと）
- 魅力的で安定した仕事をつくる（しごと）
- 暮らしの豊かさを実感できる地域をつくる（暮らし）
- 新たな人の流れをつくる（人の流れ）



## 福島ならではの地方創生の推進

11

モニター画像 11

地方創生につきましては、現在、「ひと」、「しごと」、「暮らし」、「新しい人の流れ」の4つの基本的な視点に基づき次期「ふくしま創生総合戦略」の策定を進めており、新たな戦略の下での施策につながるよう、これまでの人口減少対策を更に加速し、福島ならではの地方創生を推進するための事業構築を行いました。

# 結婚・出産・子育て支援



助産師の養成と安定的な確保



保育環境の改善



女性のITスキルの習得や  
多様な働き方を支援



県中児童相談所の整備

## 取組内容

- 助産師養成施設の整備
- 質の高い保育を確保するための課題解決の取組や環境改善への支援
- 子育て世代の女性のスキル習得や多様な働き方による就労支援
- 子どもを虐待から守るための取組強化
- 県中児童相談所の機能強化 など

12

## モニター画像 12

結婚・出産・子育て支援につきましては、県立医科大学に、令和5年度の開学を目指し、助産師養成施設の整備を進めてまいります。

また、質の高い保育を確保するための課題解決の取組や保育環境の改善に対する支援を行うほか、子育て世代にある女性のITスキル習得や多様な働き方による就労を支援してまいります。

さらに、子どもを虐待から守るための取組の強化に加え、県中児童相談所の事務所と一時保護所を一体的に整備するなど、安心して結婚、出産、子育てができる環境づくりをしっかりと進めてまいります。



# 教育環境の充実 誰もが活躍できる社会の形成



英語によるプレゼンテーション  
能力の向上



ICT環境の整備



「伊達地区特別支援学校」  
の整備



農福連携の推進

## 取組内容

- 理数教育や思考力等を育む取組を通じた学力向上、グローバルな人材育成
- 新しい時代の学びに対応するためのICT環境の整備
- 伊達地区特別支援学校の整備
- 芸術文化活動を通じた障がい者の社会参加促進、農福連携の推進 など

13

## モニター画像 13

次に、教育環境の充実につきましては、理数教育や思考力などを育む取組による学力向上や、高校生が復興に係る探究活動の成果を海外において英語で発表するなど、グローバルな人材育成に取り組んでまいります。

また、新しい時代の学びに必要な環境を整えるため、ICT環境の整備に取り組むほか、「伊達地区特別支援学校」の整備を進めてまいります。

誰もが活躍できる社会の形成につきましては、芸術文化活動を通じた障がい者の社会参加の促進や農福連携による農業分野への就労支援などの取組を進めてまいります。

# 健康長寿県の実現



健康づくりの実証実験



在宅医療と介護の連携推進



介護助手の導入支援による  
福祉・介護人材の確保



「保健医療従事者養成施設」の整備



「(仮称) こころの医療センター」の整備

## 取組内容

- 職場で出来る健康づくりの実証実験や大学と連携した事業効果の検証
- 在宅医療と介護の連携推進
- 福祉・介護人材の確保
- 保健医療従事者養成施設の整備
- (仮称) こころの医療センターの整備、宮下病院の整備 など

## モニター画像 14

次に、健康長寿県の実現についてであります。

職場内で簡単に出来る健康づくりの実証実験や、東京大学と連携した、事業所における健康経営の事業効果の検証など健康づくりの取組を促進してまいります。

また、在宅医療と介護の連携を更に推進するとともに、福祉・介護人材の確保に向け、介護助手の導入支援にも取り組んでまいります。

さらに、令和3年度の開学を目指し、県立医科大学に保健医療従事者養成施設を整備するほか、(仮称)こころの医療センターや宮下病院の整備を進めてまいります。



## 定住・二地域居住、若者の定着・還流 〔新しいひとの流れをつくる〕



地域企業の課題解決への  
都市人材の参画



福島での新しい働き方・  
暮らし方を体験



高校生の郷土理解を  
深める取組



外国人の日本語学習  
機会の拡充

### 取組内容

- 都市部の人材が有するスキルやノウハウを地域企業の課題解決にいかす取組
- 地域資源をいかした新しい働き方・暮らし方の体験を定住につなげる取組
- 移住等を検討している若者に対する住宅支援
- 地域課題の探究活動を通じて高校生の郷土理解を深める取組
- 外国人の雇用に関する相談体制や日常生活支援の充実 など

### モニター画像 15

次に、定住・二地域居住の推進と若者の定着・還流についてであります。

専門的なスキルやノウハウを有する都市部の人材に地域企業の課題解決に参画してもらう取組や、地域資源をいかした新しい働き方や暮らし方の体験、移住を検討している若者への住宅支援などに積極的に取り組んでまいります。

また、地域課題の探究活動を通じて、高校生の郷土理解を深める取組を進めるほか、外国人の雇用に関する相談体制や日常生活支援の充実を図ってまいります。

# 交流人口の拡大



オリンピック・パラリンピック  
大会の開催と様々な交流



福島空港のビジネス利用拡大  
や新規路線の誘致



JR只見線の復旧や  
利活用を一層促進



観光資源をいかした地域主体の  
周遊観光の仕組みづくり

## 取組内容

- 東京オリンピック・パラリンピック大会開催を契機とした様々な交流
- 福島空港のビジネス利用拡大や新規路線誘致に向けた取組の強化
- JR只見線の復旧や利活用促進
- 地域主体による周遊観光の仕組みづくりへの支援 など

## モニター画像 16

次に、交流人口の拡大についてであります。

本年開催される東京2020オリンピック・パラリンピック大会を契機に、県民の皆さんと共に、様々な交流事業を展開してまいります。

また、福島空港のビジネス利用拡大や新規路線誘致に向けた取組の強化を始め、JR只見線の全線復旧に向けた取組や利活用促進、地域主体による周遊観光の仕組みづくりを支援するなど、交流の拡大と充実につなげてまいります。

一日も早い復興と福島ならではの地方創生の推進に向け、これらの取組をしっかりと進めてまいります。

# 令和2年度 福島県総合計画 11の重点プロジェクト

822事業 6,446億円

## 人口減少・高齢化対策

### 1 人口減少・高齢化対策プロジェクト

284事業 615億円

内容 (1)しごとづくり・しごとを支える人づくり (2)新しい人の流れづくり (3)結婚・出産・子育て支援 (4)暮らしやすく活力あるまちづくり (5)高齢者が元気で豊かに暮らせるまちづくり

## 避難地域の復興・再生

### 2 避難地域等復興加速化プロジェクト

62事業 435億円

#### 内容

- (1)安心して暮らせるまちの復興・再生
  - ①復興拠点を核としたまちづくり
  - ②広域インフラの充実・広域連携の推進
  - ③浜通り地方の医療等の提供体制の再構築
  - ④産業・生業の再生
- (2)世界のモデルとなる復興・再生
  - ①福島イノベーション・コースト構想の推進
  - ②未来を担う、地域を担う人づくり
  - ③地域の再生を通じた交流の促進

## 安心して住み、暮らす

### 3 生活再建支援プロジェクト

34事業

238億円

#### 内容

- (1)住まいや安全・安心の確保
- (2)帰還に向けた取組・支援
- (3)避難者支援体制の充実

### 4 環境回復プロジェクト

33事業

994億円

#### 内容

- (1)除染の推進
- (2)食品の安全確保
- (3)廃棄物等の処理
- (4)環境創造センター等における研究の推進
- (5)廃炉に向けた安全監視

## ふるさとで働く

### 7 農林水産業再生プロジェクト

77事業

700億円

#### 内容

- (1)安全・安心を提供する取組
- (2)農業の再生
- (3)森林林業の再生
- (4)水産業の再生

### 8 中小企業等復興プロジェクト

41事業

875億円

#### 内容

- (1)県内中小企業等の振興
- (2)企業誘致の促進

## 心身の健康を守るプロジェクト

### 5 心身の健康を守るプロジェクト

55事業

214億円

#### 内容

- (1)県民の健康の保持・増進
- (2)地域医療等の再構築
- (3)最先端医療の提供
- (4)被災者等の心のケア

## 子ども・若者育成プロジェクト

### 6 子ども・若者育成プロジェクト

106事業

187億円

#### 内容

- (1)日本一安心して子どもを産み、育てやすい環境づくり
- (2)復興を担う心豊かなたくましい人づくり
- (3)産業復興を担う人づくり

### 9 新産業創造プロジェクト

33事業

288億円

#### 内容

- (1)再生可能エネルギーの推進
- (2)医療関連産業の集積
- (3)ロボット関連産業の集積

## まちをつくり、人とつながる

### 10 風評・風化対策プロジェクト

61事業 136億円

#### 内容

- (1)農林水産物をはじめとした県産品の販路回復・開拓
- (2)観光誘客の促進・教育旅行の回復
- (3)国内外への正確な情報発信
- (4)ふくしまをつなぐ、きずなづくり
- (5)東京オリンピック・パラリンピックを契機とした情報発信・交流促進

### 11 復興まちづくり・交流ネットワーク基盤強化プロジェクト

36事業

1,763億円

#### 内容

- (1)津波被災地等の復興まちづくり
- (2)復興を支える交通基盤の整備
- (3)防災・災害対策の推進

モニター画像 17

以上の主要な事業を含め、令和2年度当初予算における総合計画の11の重点プロジェクトに係る事業は、822事業で、計6,446億円となります。

# 福島県令和 2 年度当初予算

予算額 1兆4,418億円  
(うち復興・創生分 5,043億円)

18

モニター画像 18

令和2年度は、震災と原発事故から10年目の節目となる年でもあります。  
復興と福島ならではの地方創生の実現に向け、直面する課題に果敢にチャレンジし、  
福島を未来へしっかりとつないでいけるよう全力で取り組んでまいります。